

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	『近代中国の国会と憲政－議会専制の系譜－』で意図した問題提起 <当日配布資料>
Author(s)	金子, 肇
Citation	拓蹊, 3 : 37 - 37
Issue Date	2020-05-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049175
Right	
Relation	



当日配布資料

『近代中国の国会と憲政 — 議会専制の系譜 —』で意図した問題提起

金子 肇

(1) 近代中国政治史の系統的な再構成

◇個別実証の積み重ねは必ずしも歴史像の再構成に直結しない

◇一定のテーマ（ここでは議会制）に即した系統的政治史叙述の意識的追求

◇キーワードとしての「議会専制」

- ・「議会が制度上において、あるいは実質的な意味において、統治権力の頂点に君臨して政府を過度に従属させる体制」（2頁）

(2) 国家史的観点に立つ「中国憲政史」の試み

◇「憲法運用史」的分析への可能な限りのアプローチ（第II・VIII章）

- ・議会＝立法権と政府＝行政権との動態的關係 *坂野潤治『日本憲政史』（2008年）
- ・「現実政治における憲法の実際の機能、憲法の影響下における議会権限の運用が国政にもたらす影響等々」（10頁）

◇日本史における憲政史・議会史研究に学ぶ姿勢（できているかどうか、はともかく）

(3) 「議会」という制度自体に内在する自由主義的契機への注目

◇中国近代史における自由主義（リベラリズム）研究の主流

- ・立憲主義（国権濫用の制約、国民の権利・自由の保障）の受容・展開・定着
*石塚迅・中村元哉・山本真『憲政と近現代中国』（2010年）

◇議会制を支える「自由主義的要素」と「民主主義的要素」（待鳥聡史）

- ・民意の政治への反映／権力の分立と抑制／その結節点としての議会
- ・「議会専制」の歴史とは
→民主主義的要素を過度に強調する議会観（議会権力の一方的強化）が、権力の分立（議会と政府の権力的均衡・抑制）を重視する自由主義的議会観・構想を圧倒する歴史

(4) 中国における「国情」論的主張への異議申し立て

◇「西欧」的価値の＜権力分立＞は中国の「国情」に不適なのか？

- ・本書の立場→権力分立＝議会の自由主義的要素は「西欧」的価値を越え「普遍」的意義を有するという立場に立つ